

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	平成24年3月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療法人であること。医療・介護に対しての知識が豊富で、認知症は専門分野である。昨年3月に開所し、職員一同、入居者様の安全・安心ある暮らしを支援する為、その方の出来る、出来ないを見極め、その方が主役となるよう支援し、また理念にそったケアができるように、全体会議や、運営推進会議でも意見を頂き、運営している。当事業所では現在の社会情勢を考え、入所費用を介護サービスの負担金も含め低価格に設定することで、金銭面での不安を解消し、入所しやすくしている。近くにはJR原水駅、バス停まで徒歩7分、空港まで車で10分と交通アクセス良好で、菊陽町役場まで約900mと連携も取りやすい立地である。車で数分の所には大型スーパーがある為、日常生活には至って困らない環境である。近くには公園もあり、利用者様の散歩コースに適している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問した時、4人の方がゆで卵をむいておられました。会話をしながらとてもいい表情をしておられました。あの表情は、利用者の能力に応じて調理から洗濯物干し、または味見まで、どこかに登場してもらい主役を演じてもらう支援に取り組んでいるからではないかと思いました。認知症が専門分野である協力病院の力はもちろんのこと、職員と一緒にこなす歩行訓練や筋力トレーニング等、自立に向けた日々の取り組みが功を奏している例だと思えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていく為に、職員全体で話し合い、理念を作成し、理念に沿ったケアを行うように努力しております。基本理念を壁などに設置することで、いつでも見られる環境を整えています。	事業所の基本理念は、開設時に全職員の認知症ケアに対する思いを結集して作り上げられている。また、その共有・実践については、いつでも見られる場所に掲示したり、朝の申し送り時に唱和するなどして、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の総会に参加して、グループホーム活動内容を説明することで、地域の方々にご理解を頂きながら、地域とのつながりを作っています。また、地域サロンへ職員も一緒に参加しています。	事業所は区費を治めており、校区の一員として総会にも出席している。そこでは、活動内容の説明や地域住民と交わることで、地域との関係作りに取り組んでいる。また、地域サロンへも利用者と一緒に参加しており、サロンを主催、また後援している。地域の老人会や婦人会とも交流を深めている。	地域や子供会が主催する清掃活動、またはリサイクル活動等にも積極的に参加し、より日常的な交流が出来る様取り組んで欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法を機会を設けて、地域に伝えていきたいと思っています。認知症などの講演会等にも参加していく事で、スタッフへ周知しケアの質の向上を図って行きたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス内容・状況等報告し、皆様からアドバイスを頂き、それを基にサービス向上の為に取り入れ、実施しています。	会議は地元の区長、民生委員、役場の担当者、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会事務局長、利用者家族などで構成されている。メンバーに関係者が多くもあり、いろいろな意見やアドバイスが出されており、サービスの質の向上に活かしている。	タイムリーな話題や最近の新聞で取り上げられたことなども議題とし、会議の活性化に取り組んで欲しいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して情報を伝え、アドバイスも頂き、ボランティアの方々の受け入れ等についてもご指導を頂きました。	運営推進会議や案内状の持参など、月に1回は面談の機会を設けている。その際、いろいろなアドバイスや指導も受けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か、説明文書を見ながら朝の申し送り時などに再確認し、拘束しないケアに取り組んでいます。身体拘束についてのパンフレットをいつでも閲覧できるように、職員が立ち寄る場所にパンフレットを設置している。また、外部研修へ参加し、職員への周知に努めています。	身体拘束とは何か、またどういことをしたら身体拘束になるのか、パンフレットや掲示物で職員に周知徹底を図っている。また、実践者研修にも参加し、高齢者虐待等についても勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送り時、入居者の方の声や自分たちのケアを振り返り、虐待を見過ごさないように注意し、職員がストレスを溜めずに相談できるようにしています。今後、勉強会もしていきたいと思っています。また、外部研修へ参加し、職員への周知に努めています。		

事業所名:グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人・成年後見制度をご利用され、成年後見人となっている方とも連携し、金銭管理、その他の手続き等もご指導頂いています。また、外部研修へ参加し、職員への周知に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約などご理解頂けるように十分説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用したり、また、面会時の会話の中から家族の要望・希望を汲み取り、スタッフで話し合い、ケアに反映させています。担当者会議の際にも、意見・要望・ご家族の意向をヒアリングしています	運営推進会議や面会時、また担当者会議など折を見て、意見や要望を聞く機会を設けている。意見や要望があれば、スタッフで話し合い、サービスに反映させるようにしている。また、意見や要望がしやすい環境作りには配慮している。	今後もより一層意見や要望の言いやすい環境づくりに取り組んで欲しいと思います。また、第三者苦情処理機関のポスターの掲示もお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングを行い、職員の意見・提案を聞き、より良い運営ができるように努めています。また、日頃も管理者がいつでも相談できるようにスタッフとのコミュニケーションを図っています。	毎月の全体ミーティングでは、職員の意見や提案を聞く時間を設けている。また実際に気持ちシートなどは、職員の発案によるものだとの事である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況などの評価を行い、各自スタッフと相談・面談も受けながら、残業した時は手当を付ける等、労働条件も整備することで、やりがいある職場になるように配慮しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修への参加もしており、職員一人ひとりの力量に合わせ、事業所内での勉強会などを実施し、取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡会にも入会し参加することで、他の事業所の意見なども受け入れ得た知識を事業所で発表・共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時にアセスメントを行い、御本人様や御家族の方がどのように過ごしたいか等、希望・要望を聞き入れています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・困っている事を傾聴し、利用前に見学をしていただいたり、説明を行い不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、当事業所だけではなく、法人全体、又担当者の方の協力も含めて、その方に必要なサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力を見極め、生活リハビリをスタッフも一緒になって行っています。また、調理や洗濯物干しなども、一緒になって行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、管理者や担当のスタッフが付き添い、話をする時間を持つようにしています。又、病院受診に付き添いできるご家族の方には、協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンへの参加を支援したり、ご家族の協力のもと、かかりつけ医院や美容室への外出なども行っています。又、希望時には外泊・外出もして頂き馴染みの関係を保つように支援しております。	社会福祉協議会の担当者と連携を取りながら、地元の方々が集われる地域サロンへの参加を家族と共に支援している。また、彼岸や盆などの墓参り、さらにお孫さんの結婚式に出席された利用者もおられるとのことである。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、お互い話し合えるようにしたり、ユニット間での行き来を自由にする事で、お互いの関わりを深め、時には車椅子を押して上げたりする場面が見られます。		

事業所名:グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、入院お見舞いやご家族の方の体調にも配慮し、いつでも相談できるように声かけ支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活を重視し、日々の会話や関わりの中から、本人の意向を把握することに努め、申し送りや、ミーティングで話合っています。	まずは、利用者本人・家族からの聞き取りを行った上で、支援するようにしている。また、帰宅願望の原因を一緒に探したり、日向ぼっこの好きな利用者からは話しの中からニーズを探したりと、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、本人様や御家族の方からの情報収集の中で、出来ている部分と不十分な部分があった。新しい情報など、記録に残すように努力し、フィードバックしながら経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状で、出来ていること・出来ていない事、心身状態を把握し、一人ひとり、その方に合った過ごし方の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、利用者様と御家族の方とコミュニケーションを取るようにしています。それぞれの計画に対して、各担当者で評価して、御家族へ報告していますが、今後はもっと話し合いの場が必要であると感じています。	本人がよりよく暮らす為の課題やケアの在り方について、担当者会議を開いて、それぞれの意見が反映された介護計画になるように努めている。ただ、家族が忙しくて時間がとれない場合など、あらかじめ計画を作成した上で話し合いの場を持っているが、十分でない場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、ケアへの気付きなども、漏れなく記入するように、朝の申し送りでは徹底している所ですが、気づき等をケアに上手にいかし、介護計画の見直しに活用していきたいと思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット併設を活かして、お互い自由に行き来し、その時の状態に柔軟に対応し、気分転換を図るように努めています。又お互い声かけ・見守りをお願いしたり、助け合っております。		

事業所名:グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動で慰問に来て頂き、音楽やひょっとこ踊りなどを楽しんで頂きました。また、楽しく過ごせるように支援していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院だけでなく、御本人様の今までのかかりつけ医連携も取りながら受診介助したり、往診に来て頂いたりしています。また、訪問歯科診療もして頂き、支援しています。	基本的には本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期受診については家族の付き添いとなっている。また、かかりつけ医がない場合は、本人・家族の了解のもと、協力病院をかかりつけ医として、受診支援している。その他、訪問歯科診療の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康管理に注意し、バイタルのチェックを行い、少しの変化も見落とさないように観察を行い、看護師への報告・受診介助など支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から主治医、看護師との連携を図るように努め、些細な変化でも報告、相談を受けるようにしています。又、入院された場合も、家族や主治医との連携も取りつつ、早めに受け入れできるように連絡対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合においては、家族との話し合いはできておりますが、看取りについては、今後出来る限りの対応を行って行きたいと思っています。	重度化した場合の対応については、早い段階から家族と話し合いを行っている。また看取りについては、看取り指針を作成しているが、今のところ実績もなく、家族の意向によるところが多いように思われる。出来る限りの対応は行っていきたいとの考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応等について指導・周知しているところです。今後はロールプレイ・勉強会など行っていききたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法など話し合い、緊急連絡網により、全スタッフの協力・近隣に住む方の協力をお願いするようにしています。また、総合訓練を実施し、緊急時に備えた対応の取り組みも行っています。救急蘇生に関する勉強会も開催しています。	消防署指導のもと、消火訓練や避難訓練を実施している。緊急時に備えた保存食や水の備蓄も行っている。また、救急蘇生に関する勉強会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄は、個別に対応していますが、二人介助が必要な方には充分注意し、プライバシーの確保を考えて対応しています。	接遇に関するマニュアルを整備している。また月に1回は職員ミーティングの中で勉強会を行っている。声の大きさ、言動、利用者の要望に十分、耳を傾けているかなど話し合っている。個人情報の取り扱いについては利用目的を定めて、同意書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理せず、急がせずに対応しています。その日の洋服を選んでもらったりと、本人の自己決定が出来るような声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、柔軟な対応をするように、御本人の希望を聞きながら対応しています。(私の気持ち・姿勢)を作成し、本人様がどのような事に関心があるか等を把握してケアに携わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、服装を選んで頂いたり、美容室への外出や、美容師さんに毎月来て頂き、身だしなみに気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、食事の下ごしらえ、芋の皮むき、卵割、味見、お膳拭きなど職員と一緒にできる事を支援しています。	利用者の能力や経験を活かして、食事が楽しみなものになるよう支援している。例えば、芋の皮むきはスプーンを使うと早ききれに出来るとか、生わかめは酢味噌が美味しいとか、アイデアや経験を取り入れながら一緒に作っている。また、味見やお膳拭きなど、出来るだけ何かに参加してもらうように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態に応じた食事形態の支援を行い、主食の二度炊き・副食のキザミ食・ミキサー食等を提供しています。又、毎日の摂取量も把握して支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行い、義歯の方は夜間にポリドントを入れた容器にて洗浄しています。誤嚥のある方には、スポンジブラシでの対応を行うことで、常に清潔保持に努めるように支援しています。又、義歯の不具合のある方には訪問歯科の受診を受けられるように支援しています。		

事業所名:グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行っています。夜間は出来るだけ尿とりパットを少なく出来るように、個々に応じて、トイレやポータブルトイレへの誘導介助を行っています。	そわそわする、きよきよする、立ち上がる、下着に触る、ズボンの中に手を入れるなど、一人一人の排泄シグナルを見逃さないようにしてトイレでの排泄を支援している。排泄の自立は、自信と意欲の向上につながると考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、野菜や水分の摂取量を検討したり、日中の活動運動を取り入れたり、医師に相談し排便コントロールも行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ御本人様の希望に合わせて入浴支援を行っています。又、本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、個々に応じて二人介助での対応を行う事もあります。	入浴時間は午前が10:30~11:30、午後が14:00~16:00を予定している。2~3日に1回のペースで支援しているが、必要な場合は、その都度対応するようにしている。また楽しんでいただくために、入浴剤なども使用している。	皆さんたいへん入浴が好きな様です。回数の希望もあるようです。取り組みを希望します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は居室でゆっくり休めるように室温・湿度の調整・体位の工夫など支援し、日中でも昼寝、休息の声かけ支援を行い、疲れることのない様に支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬については職員が把握できるように、薬の説明書を個人記録のファイルに入れ閲覧できるようにし、内服変更時はわかりやすく申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に応じて、気分転換に買い物や散歩・サロンの参加等の支援も行っていきます。また、私の姿と気持ちシートを活用し、充実した日々を送れるように取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候の良い日にはホーム外へ散歩等の支援をしていますが、もう少し柔軟に対応することで、ご家族や地域の方々との協力を得ながら外出支援をしていきたいと思っています。	年間の活動計画として、花見、夏祭り、買い物、ドライブ等を計画している。訪問当日は、外出から菜の花を摘んで帰宅される利用者も見えました。菜の花に負けない笑顔でした。	気候のいい時期には、家族や外出ボランティアなどの支援を得ながら戸外へ出かけられるよう取り組んで欲しいと思います。

事業所名:グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っていますが、必要なものがある時には、御本人様が自由に使えるようにしており、病院受診の支払いなど、スタッフと一緒に支払いをする等支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望で電話をしたり、電話を取り次いだり、お手紙のやり取りを支援したりしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前にはオリジナルのフラワーを飾ったり、トイレの場所もわかるように表示したり、迷われる方には付き添い、誘導を行う事で混乱しないように支援しております。	共用空間は、天井にトップライトが設けられており、そこから降り注ぐ春の陽光が程良い明るさと、暖かい居心地のいい空間を作り出していました。また、壁面には、利用者と職員で共同製作した貼り絵が飾られていたり、居室のドアには職員手作りのオリジナルフラワーが飾ってあったりと、とてもいい雰囲気でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中で、ソファーに座って、くつろいだり、御自分の場所として確保し、過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ馴染みのあるものを使用して頂く様に、慣れたものを準備していただくようしております。又、写真等飾ったりしていくことで、馴染みのある空間作りに配慮しています。	ベッドとエアコンが備え付けられている。家具や衣装ケース、その他調度品は使い慣れたものを使用してもらい、居心地良く過ごせるよう支援している。また、位牌や家族写真なども馴染みのある空間作りに一役かっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには安全面を考え、手すりを設置しています。また、自立支援という観点から、手すりを使い職員付き添いでの歩行訓練や筋力トレーニングを行っています。		